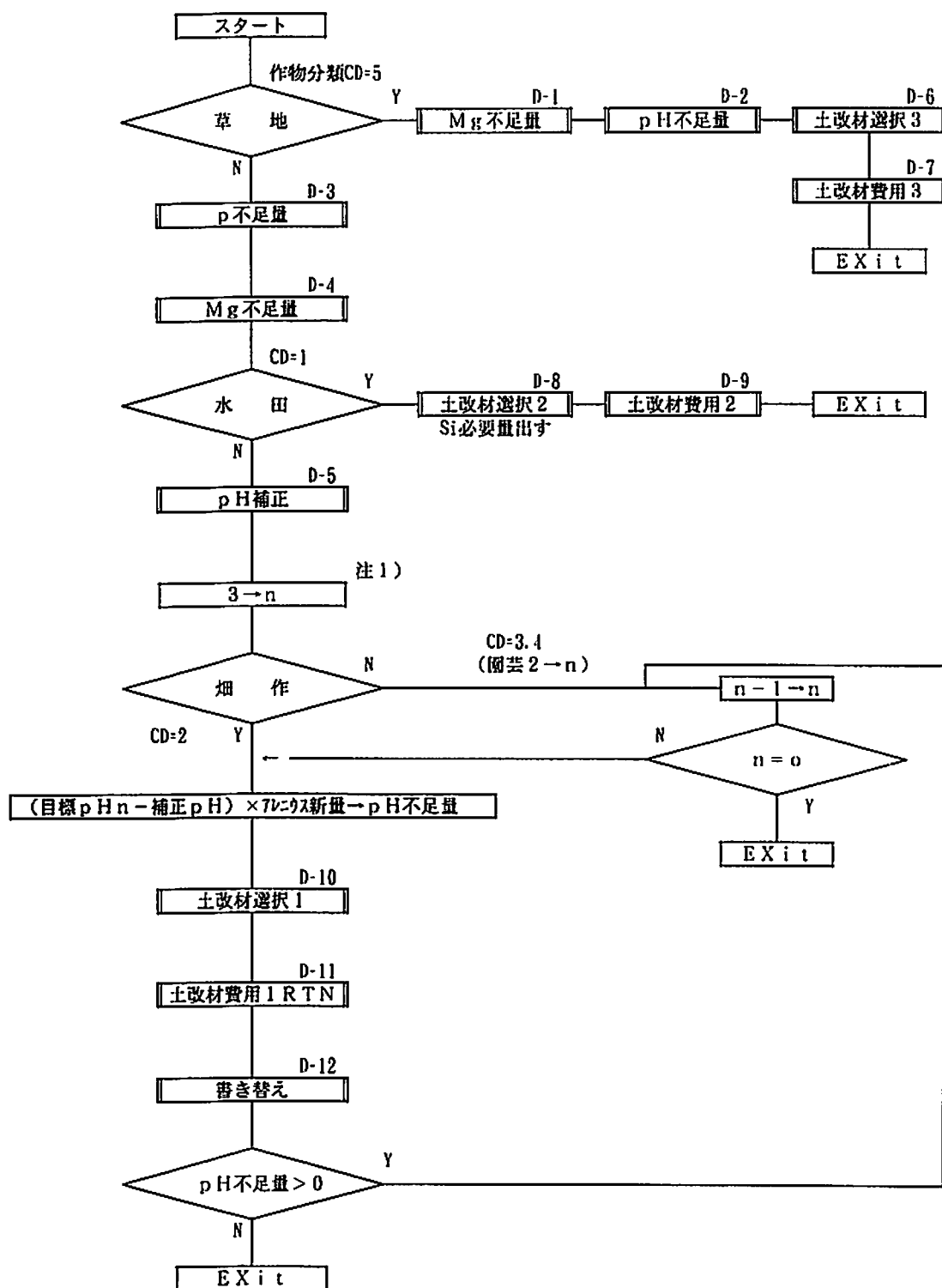


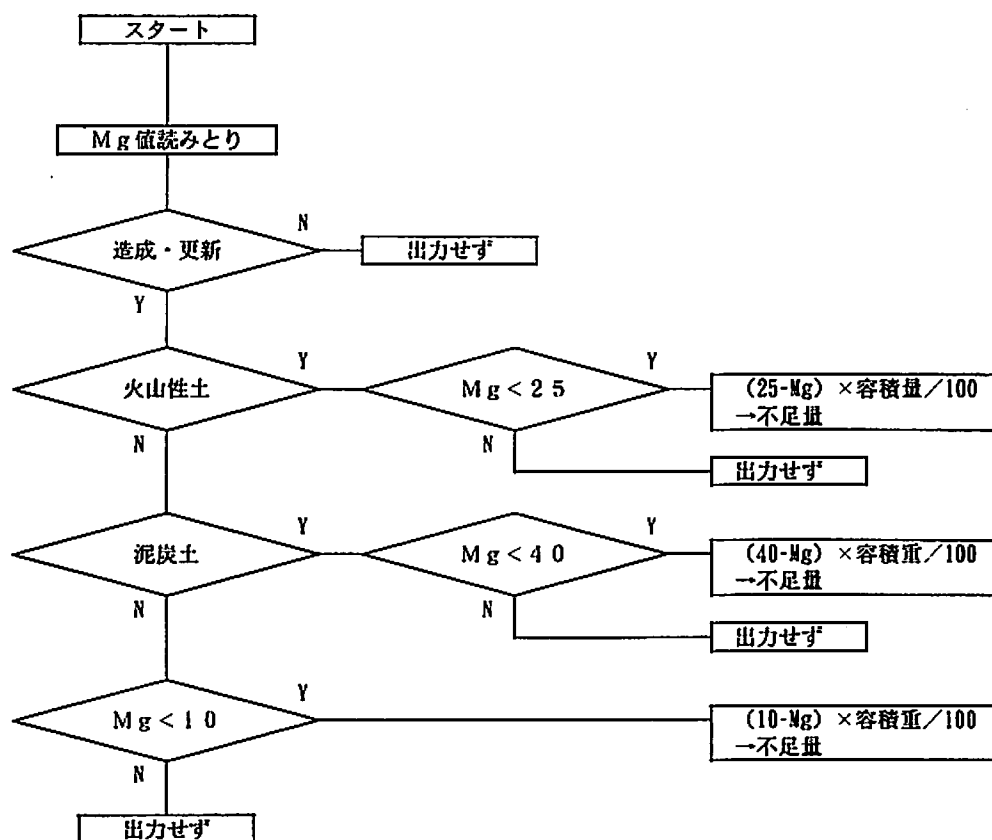
D 土壌改良資材不足量算出、選択の全体フロー



注1) 畑作は3種類の目標pH、園芸、果樹は2種類の目標pHについて、それぞれ土改資材を算出する。  
畑作は5.5、5.7、6.0、園芸、果樹は6.0、6.5。

注2) 必須項目が未入力の場合は欠測値を0とみなして資材量を計算する。

D-1 草地のMg不足量算出フロー



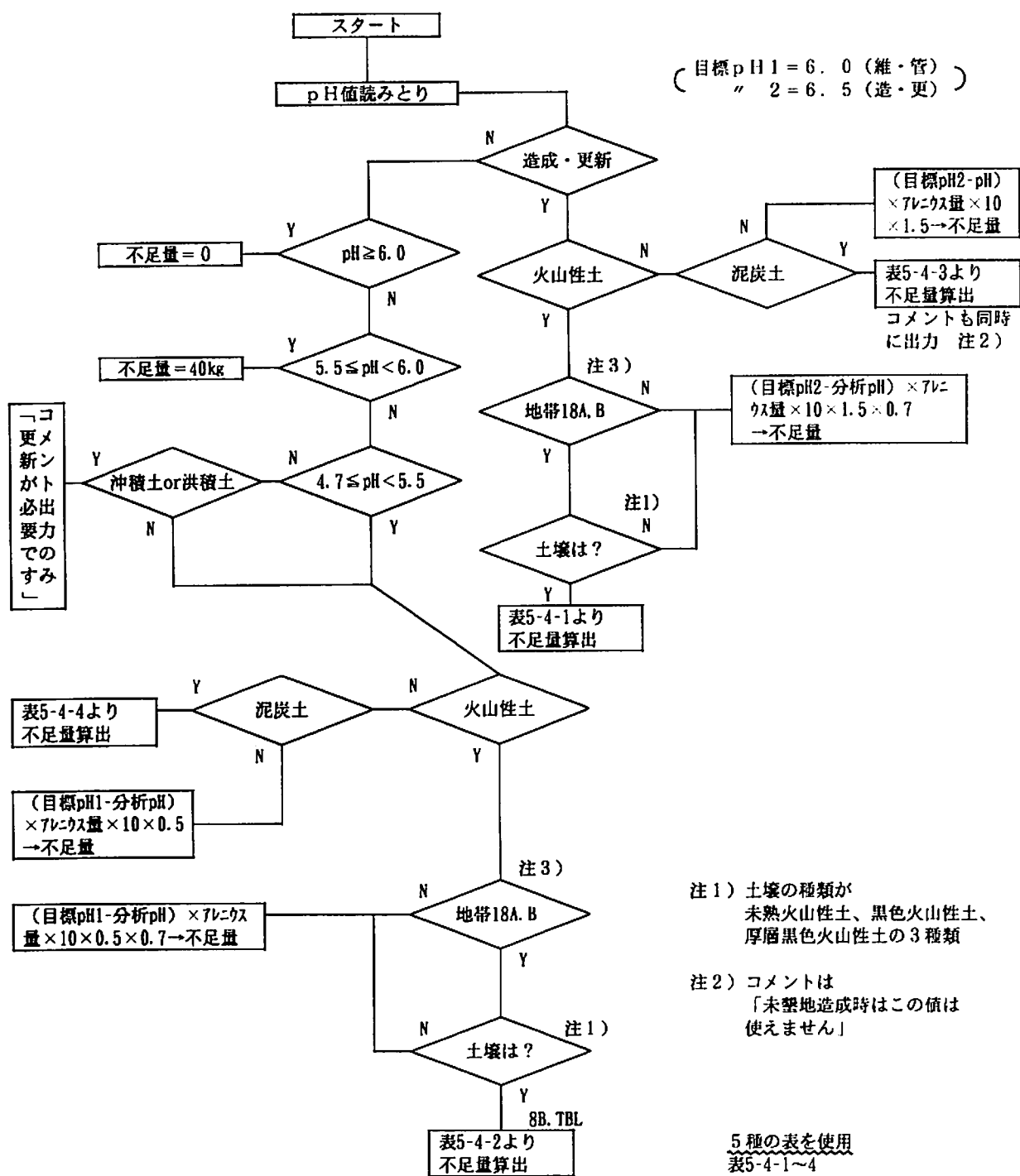
Mg < 25 → 分析Mg < 目標Mg 4  
 Mg < 40 → " < " 2  
 Mg < 10 → " < " 1

目標Mg 1 = 10 (沖積、洪積)  
 " 2 = 40 (泥炭)  
 " 4 = 25 (火山性土)

(25 - Mg) → (目標Mg 4 - 分析Mg)  
 (40 - Mg) → ( " 2 - " )  
 (10 - Mg) → ( " 1 - " )

ここでは、Mg不足量を算出しているが、Mg不足量 > 0 の場合のみpH資材名に「苦土炭カル」を選択するにとどめる。その量はpH不足量から算出する。Mg不足量 ≤ 0 の場合は、pH資材名に「炭カル」を入れ、pH不足量から算出する。→ D-6

D-2 草地のpH不足量算出フロー



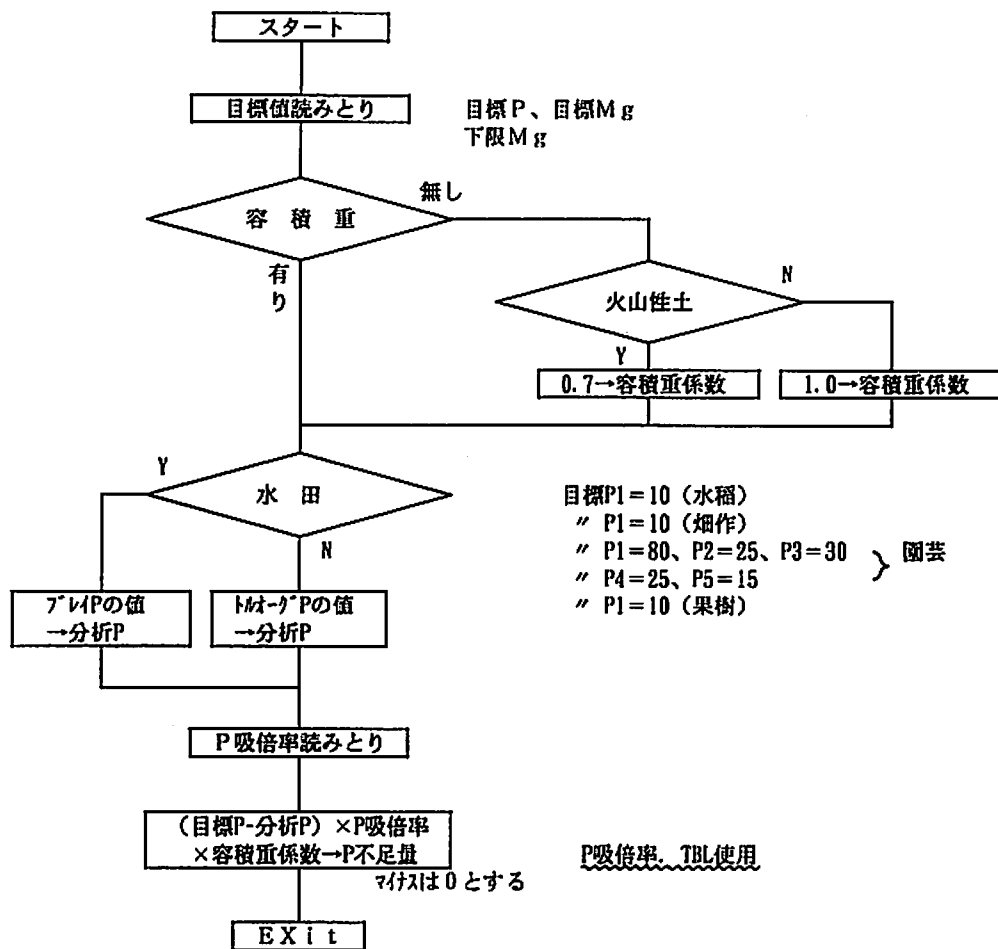
注3) この場合の地帯区分のみ、一般畑作の地帯区分を適用する。

注1) 土壌の種類が  
未熟火山性土、黒色火山性土、  
厚層黒色火山性土の3種類

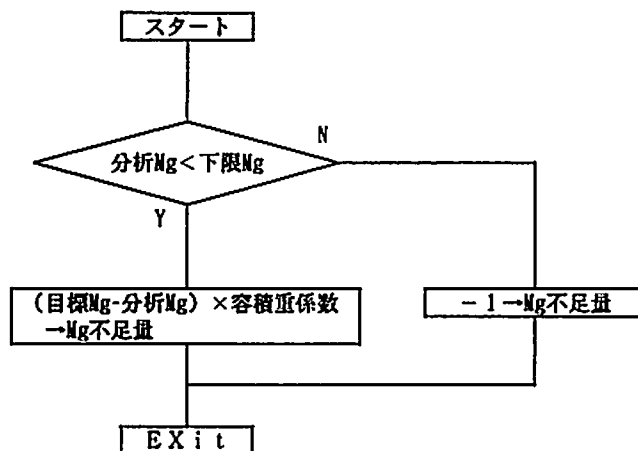
注2) コメントは  
「未整地造成時はこの値は  
使えません」

5種の表を使用  
表5-4-1~4  
7Lニクス量, TBL

### D-3 P不足量算出フロー（草地以外）

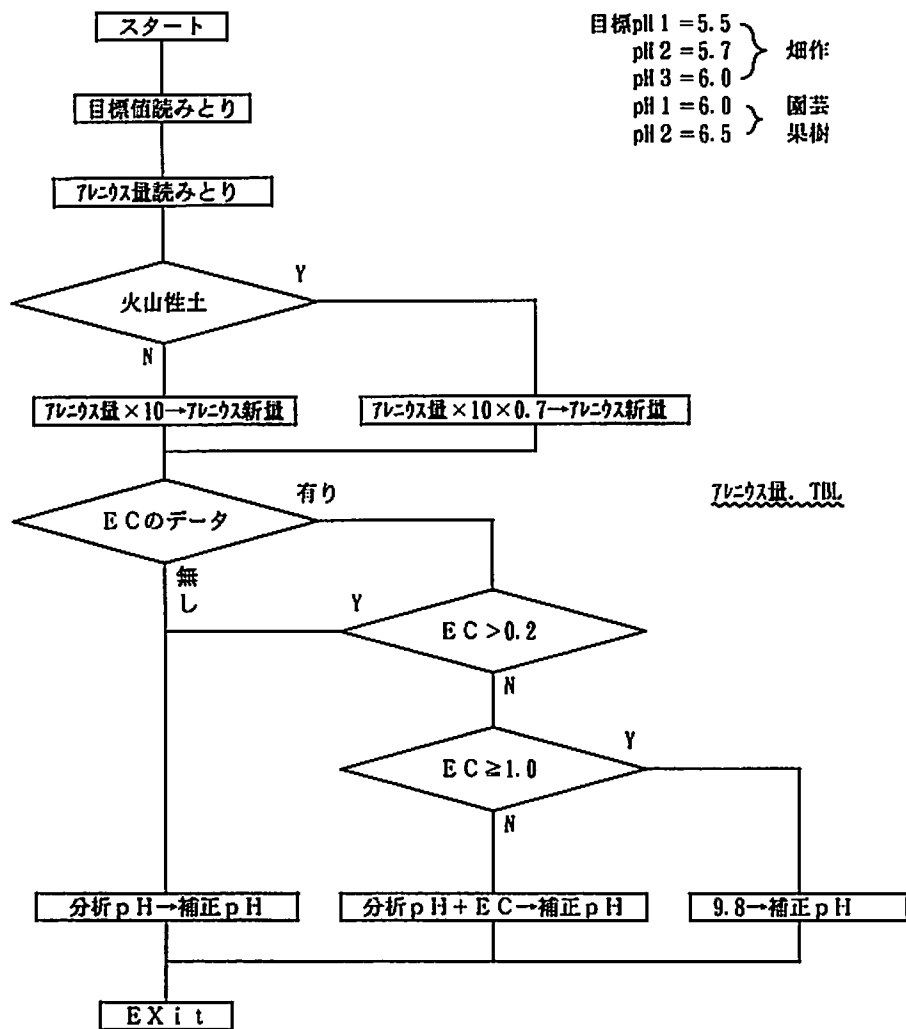


### D-4 Mg不足量算出フロー（草地以外）

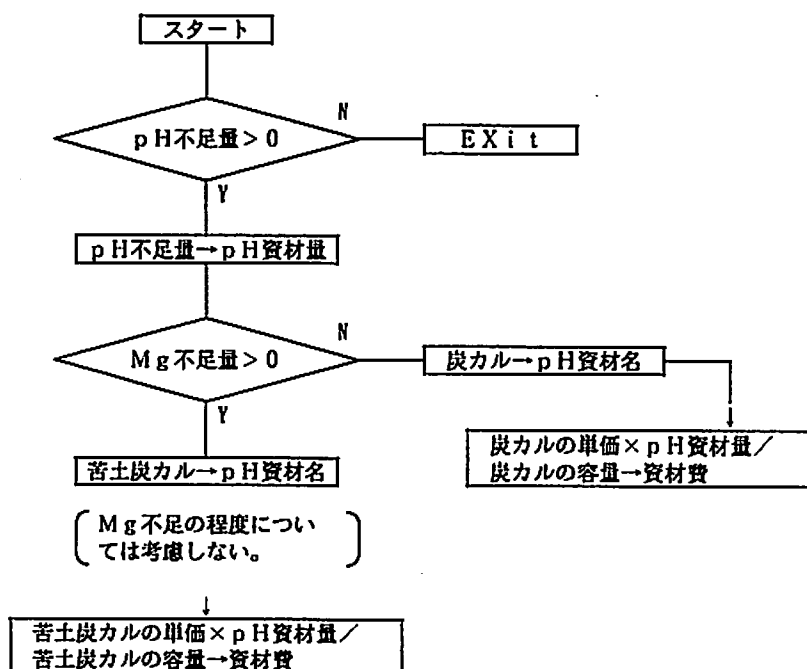


| 作目   | 目標Mg | 下限Mg |            |
|------|------|------|------------|
| 水田   | 25   | 25   |            |
| 畑作   | 35   | 25   |            |
| 果樹   | 35   | 25   |            |
| 園芸 1 | 25   | 20   | (CEC14以下)  |
| " 2  | 35   | 25   | ( " 15~24) |
| " 3  | 40   | 30   | ( " 25以上)  |

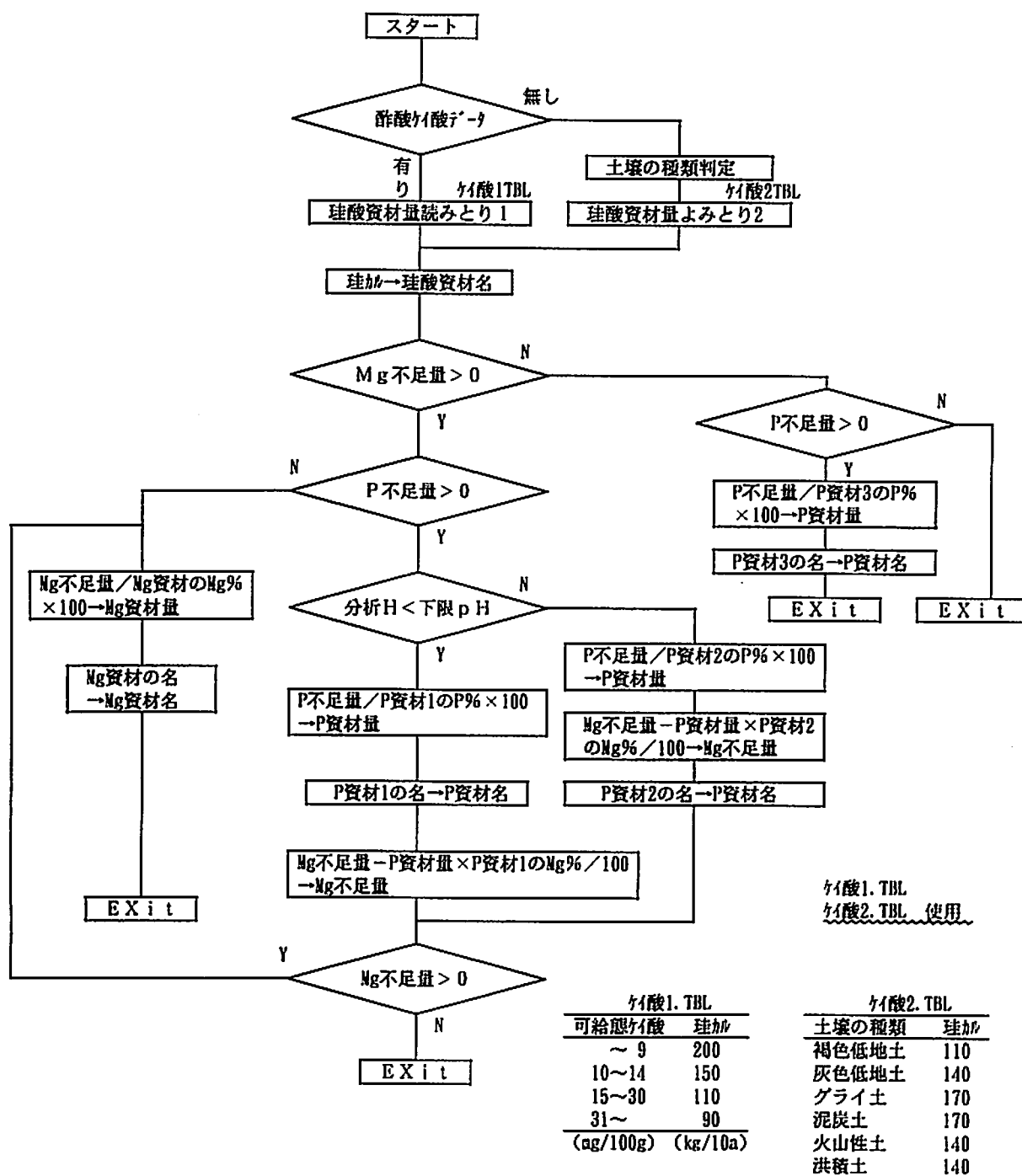
D-5 pH補正フロー（草地、水田以外）



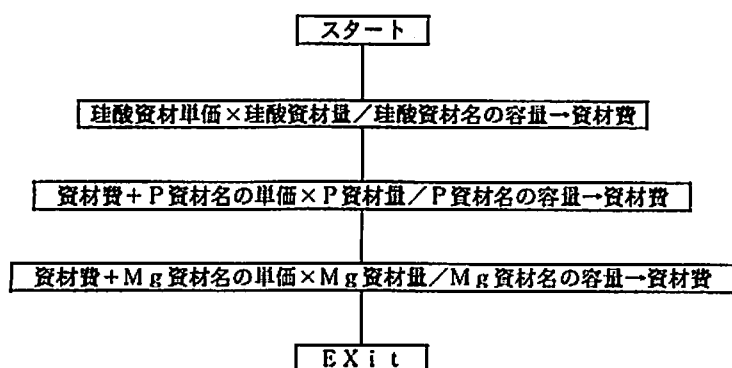
D-6、7 草地土改材選択3・費用のフロー

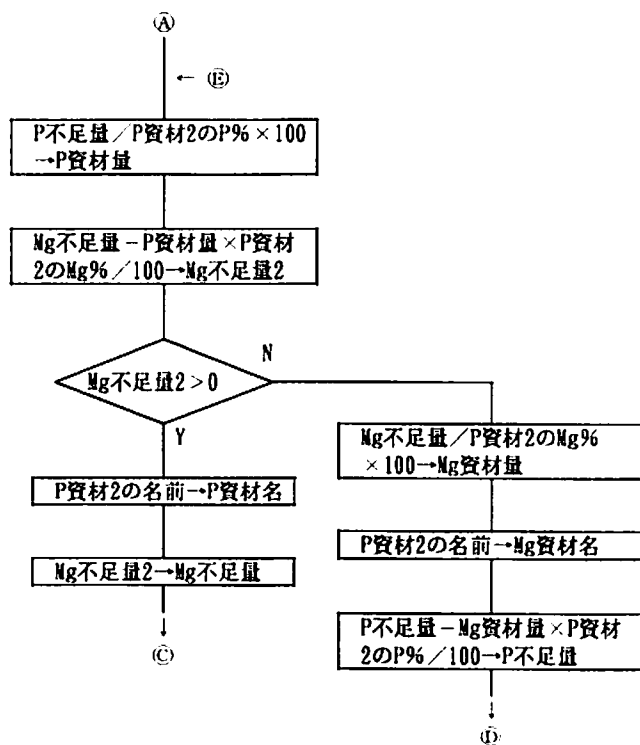
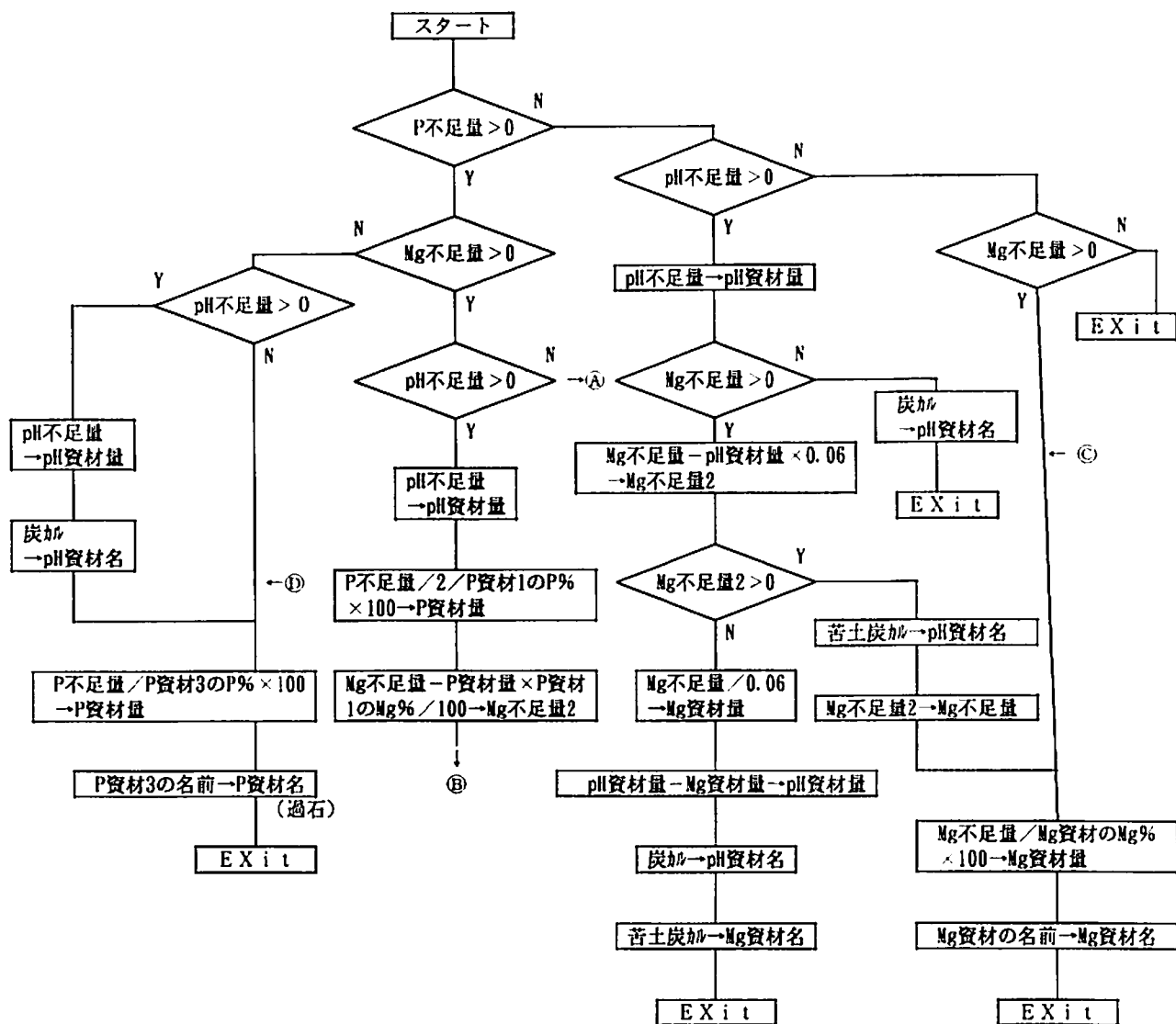


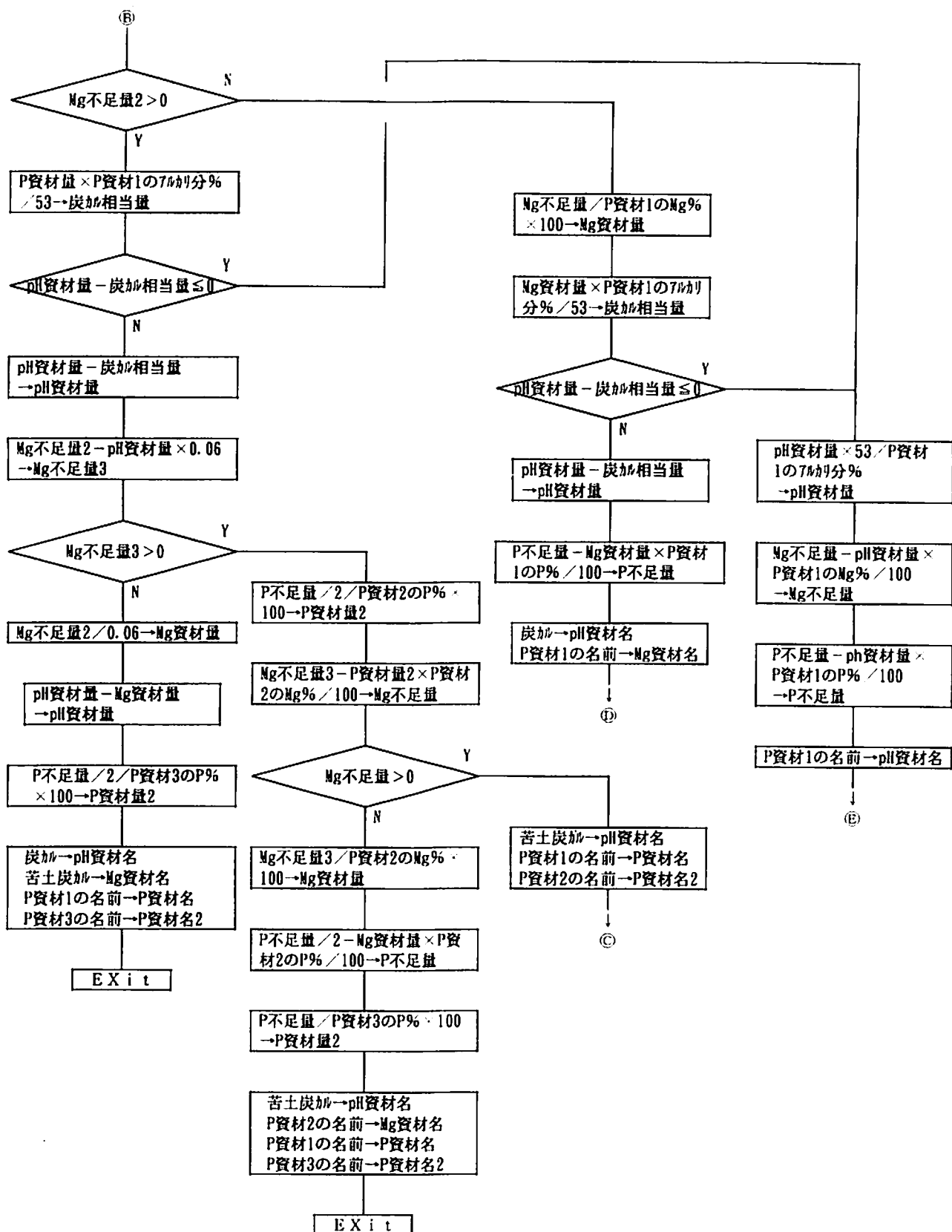
# D-8 水田土改材選択2のフロー



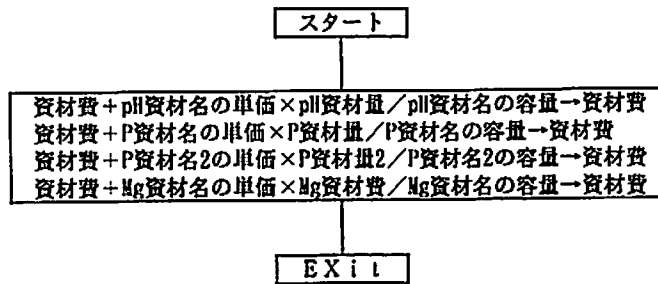
# D-9 土改材費用2のフロー







# D-11 土改材費用1のフロー



# D-12 書きかえのフロー

